

# 佛教史學會々報

□三尾調査 十月十七日會員九名北野に集合、午前十時高雄着、榎尾西明寺は生憎住職が不在であつたが榎尾高山寺は口入田覺了氏の厚意により種々便宜を興へられ、榎尾の經藏に入るを得て數多の珍籍を發見したことは別報の如くである(目下無倫氏稿)。會員一同はこれらの獲物を得て頗る満足せるもの、如く、午後四時歸途に着いた。

□榮山寺行 十月三十一日より翌日にかけて、大和宇智郡榮山寺に史跡調査の旅をなす。橋川教授、日下幹事外一行五名、七時半出發、奈良龍田を經て法隆寺前大黒屋に一泊、翌早朝寺内を拜觀後出發、五條驛に下車し雨を冒して榮山寺に向ふ。途中宇智川の深溪に近頃發見の涅槃經磨崖碑の拓本を取る。榮山寺は又梅室院と稱し、養老二年藤原武智鷹の創立にかゝる、天平時代建築の八角圓堂、單層茅葺になつた屋根は荒廢せるを再三修繕の加へられたものであらうが、内部の構造や手法等に至つては純然たる天平様式の倣を留め彩色の模様如きもまた所々に見られ創建當時の美觀が十分に偲ばれた。因みに此堂并びに七重の石塔は特別保護建造物になつて居る。尙此の外所謂高雄神護寺、宇治平等院の鐘と

佛教史學會々報

共に日本三古鐘の一に數へられてゐる青銅鐘は古へ深草道澄寺にありしを此處に移したもので小野道風の筆になれる鐘銘を有するかくして一行近郊の風景を賞する事小時午後二時寺を出で、歸京□例会 十二月十日午後二時本學内第一教室に講演會を開く。來會者約二十名。

- 一、觀自在菩薩の史的研究 藤井 周慶
- 一、吉崎本願寺と山科本願寺 橋川 正
- 一、淨洗寺一切經に就いて 日下 無倫

□出版 本會編『戊午叢書』第二期刊行豫定目錄。大正十年度に於て第二期として左の三冊を逐次發行する。

## 第一冊 佛光寺小部集

- 1、光照寺本 宗祖門侶交名牒 一卷
- 2、光蘭院本 宗祖門侶交名牒 一卷
- 3、還相廻向聞書 了源師親筆本 一卷
- 4、同 右 了海師親筆本 一卷
- 5、繪系圖 一卷
- 6、算圖錄 一卷
- 7、教化集 一卷

- 第二冊 聖德太子御草本法華義疏 四卷
- 第三冊 實悟系圖(寫真版) 一卷

以上 (高柳、藤井)